

# 青森 県立青森南高等学校



高校生ボランティア・アワード2024

## 活動概要 「紡ぐ」

### 活動概要

①小牧野遺跡での土器づくり  
縄文時代に行われたことを実際に体験してから本格的に活動を始めようと思わず、青森市内にある小牧野遺跡でスタッフの方に土器の作り方を教えてもらい土器を作りました。作ってみたいところ、作るまでの過程がかなり難しくて縄文時代では生活の基礎を作ることが困難だったことと大変だったことを協力して生活していただくことを知ることができました。また、模様をつけるのも難しく、今よりも技術が発展していないためここまで高度に作れるのは、大自然で生活したことでも身についた繊細さと器用さがゆえだと思いました。また、出来上がった土器は少しでも気泡が入っていると割れてしまうので気を付けて作らなければいけないのが大変でした。

②縄文祭りの参加  
小牧野遺跡で昨年の7月30日に行われた縄文祭りで青森南高校のブースを設けさせていただきました。縄文鍋を自分たちで作る来場者の方に振舞う、木の末を使用した縄文ブレッド、ミニチュア土器づくり、世界遺産スタンプラリーなどを行いました。地域の方々や子供たちに縄文の魅力を知ってもらえるとても良い経験となりました。また、どのように説明したらわかりやすいのかなど新たな改善点も見つけ新たな発見が沢山出来たと感じました。

③東北北にある縄文遺跡  
青森市内の遺跡だけでなく、市外にある縄文遺跡も訪れました。北海道、東北北にある縄文遺跡を見学しました。各遺跡を見学して縄文時代の中でも前期、中期、後期、晩期等に分類されている時代区分によって生活スタイルも変化しているのが現代と変わらないと思えました。

④北海道函館市にある南茅部高校との交流  
函館市にある南茅部高校縄文部の皆さんと交流会を行いました。堀ノ島遺跡のすぐ近くに位置している南茅部高校も私たちが同じように縄文の魅力について広めたいという活動を行っていて、どのように活動をしているのかなど意見を交換しました。南茅部高校のみなさんは今の時代に合っている電子機器を使用した遺跡のガイドを行っています。また、堀ノ島遺跡縄文祭りでのような発表を行っているのかなど私たちの普段の活動に使えるような工夫の仕方がたくさんありました。

⑤堀ノ島遺跡  
10月8日に函館市で行われたはこだて縄文まつり2023in函では、普段行っている縄文についての探究活動を訪れた地元の方々へ発表をしました。多くの方に会場に来ていただくことができればいいと思っております。

⑥御所野遺跡  
村井亮さんがゲストの縄文ワークショップというラジオ番組に参加しました。村井さんと一緒に遺跡を探索し詳しく深い内容を知ることができた、自分たちがガイドするときの参考にもなりました。

⑦三内丸山遺跡での体験活動  
縄文時代の人々のファッションや生活についての知識を深めるために三内丸山遺跡で体験活動を行いました。勾玉は実際に当時ファッションとして身につけられていたものであり、いま私たちが身につけているネックレスとあまり変わりありません。興味深いです。



## 活動の目的・志など 「平和」

### 活動の目的・志など

一年生の時、総合的な学習の時間で各クラスごとにテーマを設定して地元とそのテーマを結び付けて市議会委員の方に説明するという活動を行いました。私達のクラスでは、「平和」をテーマに探求をおこなうことになり、その中でも「縄文と平和」を結び付けたいのではないかと考え、探求活動を行いました。縄文と平和をつなげて探求しようと思った理由は、小学校からの経験がありました。青森県には世界遺産登録されている縄文遺跡群があり、小学校の頃から遺跡を実際に訪ねてみたり、ガイドの人の話を聞きながら、遺跡の中を探検したりなどという活動を行いました。その中で、縄文時代には争いが少なく、人々が協力して生活していたということを知った事を受けていたため、高校生では縄文の平和についてもっと深く探求していきたいと思い、縄文と平和をつなげてみようと思いました。縄文時代には弓矢や槍などの武器になりうるものも存在していたにもかかわらず現代より争いが少なかったという点に惹かれて縄文時代についても探究活動を行ってみたいと思いをもちました。

縄文時代の生活の中には現在行われている生活スタイルに類似している点も多くあります。例えば、漁獲や採取などは現在の漁業、農業につながっています。縄文時代と現代は私たちが思っているよりも身近な存在だったと考えられます。そのことを知らない人が多かったため、平和とともに縄文時代の良さを広げていくことを目的としています。今の快適な生活を送ることをサポートする家電などはとても良いことであり、これからの社会ではより発展していくと思われ、時に家電がなくすべて手作りで行っていた時代に思いをはせることも平和を考える上で大切だと思います。また、縄文時代の気候変動の可能性についても最近論文が発表されており、過去のことについて正しく知ることが同じ過ちを繰り返さないようにすることができるとも思います。時代ごとに変わっていく争いの原因についてボランティアを通してみんなで考えたい。これからは争いが安全で過剰なく当たり前の明日が訪れる笑顔で満たされた世界を作りたいです。

また、世界全体で起こっている様々な問題の解決にも繋がってきたいと思っています。ロシアによるウクライナ侵襲はまだ解決されていません。ロシア語を高校で学びロシアについて知る中で、私達はロシアの文化が大好きだからロシアの悪い面だけ見られるのがとても苦しいと感じています。そんな今だからこそ私達は今までよりも平和について考え活動すべきだと決意しました。世界では、紛争・戦争などで苦しんでいる人々がいて多くの国で起こっています。また、日本でも北朝鮮によるミサイル攻撃といった国際問題が起きています。政治や宗教などが関係している争いが多く起きているため、世界での共通の平和の概念を世界に広げたいと思っています。

強力ながらもこの「縄文と平和」で解決に導くことができるとも、自分たちだけでなくこれら生まれてくる世代にとっても過剰なく優しい社会にしていきたいです。今世界平和というものは今すぐ解決できるような活動ではありません。ですが、平和のバトンを少しずつ繋いでいけば必ずいつかできると思っています。不可能を可能にする力をみんな一人ずつ持っているということを知ることができてほしいと思っています。

## 「Bring Jomon to the World」 活動の詳細(実施内容/成果・実績など)

### 出場大会

①ボランティアアワード2023  
一昨年度のボランティアアワード2023に出場し初めての全国大会で緊張感もありましたが、青森県で縄文遺跡と平和をテーマにボランティア活動を行っているということを初めて県外の人にも知ってもらうことができ、自分たちの活動の実現性について考え直すことができました。

②FRAU SDGs edu こともプレゼン  
一SDGsと縄文時代の平和の関連性について高校生という立場でどのように考えているかをプレゼンを行いました。持続可能な社会にするために私たちが何をすればいいのか自分たちの考えをお伝えすることができてよかったです。

③みらい甲子園青森県大会  
一現在起きている紛争に焦点を置いた国際的な問題が起きていなかった縄文時代と現代を比較して国際化が進む現代でどのようにしていけば国籍、性別、年代関係なく暮らしやすい世界を作ることできるかを発表しました。ファイナリストに選ばれ、県内より多くの人にこの活動を広げることができました。

④みらい甲子園ファイナリスト賞状授与式  
争いがなかったこと、平和であったことの原因として協力し合って生活していたこと、近年では近所とのつながりが少なくなっていることの危機感等について発表を行いました。

⑤ボランティアアワード2023  
3一  
縄文時代について地域住民の方々に伝えていく活動を行ってともに活動を通して前向きに、ふるさとに興味を持ってもらえるように活動しているということ日本語だけでなく、英語でも説明をしました。

⑥高校生 VOLUNTEER AWARD 2023  
高校生ボランティアアワード2023の授賞式の様子。

私たちは縄文時代の平和を広めていくだけでなく、縄文遺跡を自分たちで何度も訪れガイド講座も受けて自分たちでもガイドをすることのできるくらいのレベルまで学んできた内容をまとめて縄文遺跡で地域のつながりができて、地元を愛する若い世代が増えて、進学や就職のときに青森県に残る人数が増えればよいなと思いつつ地域活性化も含めて様々なジャンルで活動しています。これから私たちが海外フィールドワークをし、日本にだけではないと思いついた社会問題について見つけ出し、外国で実際に旅行している政策やボランティア活動を知り、これから各々大学進学した後も社会問題解決に尽力していきたいと思っています。去年の夏から約一年で多くの人を支えられて多くの人に出場し、平和の大切さを伝えてきました。それらの活動を通して地域の方々とお話する機会も増えて、今まで自分たちの地元に対していいところだけでなく悪いところばかりを見ていたが、温かく接してくださる方々の出会い、ボランティア活動をしていなかったら感じることのできなかったようなことをたくさん感じることができました。また、縄文時代について興味がありました人が多かったのですが、校外活動ももちろんですが、学校でのポスター制作や発表を通して、活動に賛同してくださる人も増えて今年度は去年よりも多くのメンバーで活動することができました。ボランティアは誰かのために活動するということが一般的に思われていますが、逆に私たちが誰かに支えられていることを知ることができ、やってよかったと思うことができていることを活動始めるステップを踏み出すことができたらいいなと思います。

## 「未来へつなぐ平和へのバトン」 今後の展望・夢など

### これから実施しようと考えていること

- 海外フィールドワークの実施
- 一介護の先進国であるノルウェーを訪問することで、介護の限界を迎えつつある都市の立て直しができるように改善点を見つけ出す。ノルウェーの社会政策の専門家に話を聞きに行くことで、今まで日本の都市でなかなか考えられてこなかった新しい政策を考える。ジェンダー平等ランキング上位であるノルウェーで今まで女性たちがどのように地位を高めていったか実際に活動している方々に話を聞きに行き女性の地位向上、男女平等に向けて日本がすべきことを見つけ出す。また、難民キャンプを訪れ難民の方々の実際の暮らしを拝見しこれからのような支援を必要としているかまた不必要な支援はないのかを効率のかつ合理的な新しい支援について考えていく。
- 他県の高校生のボランティアをしている様子を視察する
- 一今までも行ってきてはいますがこれからより良いボランティア活動を行い多くの人を救済するにあたって多くの価値観を知り、改善を行うことが必要だと思う。

### これからの目標

- 様々な国を訪れて自分たちの行っている活動を広めていきたい
- 一世界平和に向けて各国ではどのような取り組みを行っているのかをどのように考えているのかを知りよりグローバルな活動をしていけるよう計画を立てていきたい。

### 集合写真

### 活動団体プロフィール

- 青森県立青森南高等学校外国語科
- 活動歴2年
- 1年次の総合的な探求の時間をきっかけに縄文の平和について学びたいと思いついた活動が始まった。
- 担任が世界遺産マイスターということもあり、入学当初から世界遺産やSDGsについて興味を持つようになった。
- 幼いころから縄文に触れ合うような活動が多かった。
- 縄文の魅力を発信中!!